

産業都市委員会

所管事務調査

- 富士宮市の空き家の現状について
- 滞在型観光について

【植松健一 委員長のコメント】

富士宮市の空き家の現状について、富士宮市建築住宅課より説明を受けました。

全国的に空き家は増加しており、平成 28 年に各行政区単位で実施した調査によれば、富士宮市内の空き家数は 1,130 戸でありました。今後、人口減少に伴いますます空き家は増えていくものと思われます。今後空き家を増やさないための施策と、発生してしまった空き家の適正管理についての施策の必要性を痛切に感じました。

また、滞在型観光についてはまずは現状を知ること、さらに当市における滞在型観光の方向性・可能性を探ることが必要であるとの委員の共通認識のもと、今後関係機関との意見交換や現地視察を行っていくこととなりました。

まずは、11 月定例会閉会後の 12 月 23 日に富士宮市観光協会との勉強会を行い、認識の共有をしました。



▲ 12/23 開催、観光協会との意見交換会

先進地域視察

- 甘楽町…観光振興について
- 藤岡市…施設の集客・滞在機能・地域情報発信機能等について

【植松健一 委員長のコメント】

観光振興、滞在型観光及び移住定住として、群馬県甘楽町が行っている「The Hotel 甘楽プロジェクト」を視察しました。空き家や町有施設などを既存資源の有効活用につなげるという発想に興味深いものがありました。また管理運営を民間委託することにより地域と共働していることが良くわかりました。

次に、施設の集客・滞在機能・地域情報発信機能及び公共施設の複合化による地域振興として群馬県藤岡市の「道の駅らん藤岡」を視察しました。こちらでは道の駅を人と物と情報の交流拠点とすることを目指していました。地元企業と第 3 セクターでの運営会社の設立や、地域の商業施設、交流会場、さらに防災拠点としての機能も併せ持っていること等、公共施設の複合化という点で今後の公共施設のあり方を考えさせられました。今視察の結果を地域活性化のための施策に活かしていきたいと思います。



▲複合的役割を果たす「道の駅らん藤岡」の説明をうける



▲甘楽町役場前にて